



忘れていませんか

台風対策

◎大雨と暴風◎

日本は、梅雨や低気圧、台風などによって適度な雨に恵まれ、四季の変化に富んだ国です。

しかし、1か月かかって降るような雨が1日で降ると、河川の氾濫や、山崩れ、がけ崩れなどが発生し、人々の生活や生命を脅かすようになります。

大雨や台風による被害が起きやすい季節です。警報や注意報には、十分ご注意ください。

警報・注意報の種類と基準			
警報の種類	警報発表基準	注意報の種類	注意報発表基準
暴風	陸上 20m/s以上 海上 25m/s以上	強風	陸上 12m/s以上 海上 15m/s以上
大雨	(1時間雨量) 50mm以上 但し、総雨量100mm以上 (3時間雨量) 90mm以上 中予 (24時間雨量) 180mm以上	大雨	(1時間雨量) 30mm以上 但し、総雨量50mm以上 (3時間雨量) 45mm以上 中予 (24時間雨量) 90mm以上
洪水	(1時間雨量) 50mm以上 但し、総雨量100mm以上 (3時間雨量) 90mm以上 中予 (24時間雨量) 180mm以上	洪水	(1時間雨量) 35mm以上 但し、山地は総雨量100mm以上 (3時間雨量) 45mm以上 中予 (24時間雨量) 90mm以上

◎対策◎

- 停電に備えて、懐中電灯や携帯ラジオの準備
(予備の電池を忘れず！)
- 避難に備えて貴重品などの非常持出し品の準備
- 断水に備えて、飲料水を確保
- テレビ・ラジオ・インターネットによる気象情報の確認
- むやみに外出しない。
- 浸水に備えて家財道具や食料品、衣類、寝具などの生活用品を高い位置へ移動。
- 高齢者や乳幼児、病人などを安全な場所へ誘導



～家庭でできる土のうの作り方～

土を入れたプランターを横に並べ、レジャーシートを巻いて補強します。
プランターの代わりにビールケースでも可能！

プランターを横1列に並べる。



レジャーシートを巻いて補強。



防災一口メモ

建物の耐震化について

皆さんの記憶にも鮮明に残っているのではないかと思います。平成7年1月17日午前5時46分近畿地方を中心に阪神・淡路大震災が発生しました。この地震で大勢の方が犠牲になりましたが、その80・5%の方が地震が発生してから15分の間に亡くなられています。このことから「地震の直後を生き抜く」とことの大切さがわかります。

では、地震の発生直後に、多くの命を奪った原因とは何なのでしょう。それは建物の倒壊や家具の転倒による窒息や圧死なのです。臓器不全や凍死、衰弱死も倒壊した建物の下敷きとなって逃げられなかったことによるものと考えられます。また、建物の全壊率が低いほど出火率も高くなります。地震に強い建物は家具の落下や倒壊からだけなく、火災からも人を守ることができま

